

## 物理工学系

教員数	教員等数 (人)	教 授 15 (15)	助 教 授 13 (10)	講 師 10 (16)	助 手 5 (5)	技 官〔準研〕 — (—)	
	異動状況 (人)	退職・転出 5 (2)	昇 任 2 (2)	採 用 3 (1)	学 内 — (—)		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学 会 発 表 数			
		国 内	国 外	国 内	国 外		
		39 (54)	189 (196)	283 (299)	128 (131)		
	受賞数(件)	— (1)					
	研究費等		採 択 件 数	採 択 率 (%)	金 額 (千円)		
		科学研究費	17 (22)	55.8 (56.4)	67,920 (139,700)		
		学内プロ	8 (9)	47 (45)	7,100 (7,800)		
奨学寄附金件数・金額		23件	17,400千円	(21件	26,342千円)		
受託研究件数・金額		18件	77,234千円	(11件	41,893千円)		
受 託 研 究 員	1人 (1人)						
施設・設備							

・ ( ) は前年度の数値を示す。

### 1 物理工学系の活動

学系再編後、5年が経過し、学系教員の研究分野の融合と協力体制がほぼ整備された。

前年度から学内特別プロジェクト「ナノサイエンス」がスタートし、国際シンポジウムの開催等、本学系の教員も主要メンバーとして活動している。加えて、「21世紀COE研究プログラム」も2年目を迎え、物質工学系、化学系と協力して各種プログラムを推し進めた。更に、本年度設立の「学際物質科学研究センター」の立ち上げに尽力し、主要協力学系として運営に積極的に関与した。光・デバイス関連研究や分析・計測装置の研究では、大型の助成金を含め、昨年度に引き続き外部資金の導入が活発に行われた。科学研究費等の競争的研究資金の導入も「基盤研究(S)」の継続、「若手研究」資金などの獲得も比較的順調で、着実に研究成果を上げた。国内外の研究會や国際會議への招待講演も多数見られた。

### 2 自己評価と課題

学類再編に伴う学系再編が実施されてから5年目をむかえ、学系構成教員と大学院修士課程および博士課程の研究分野の対応がほぼ固まった。その結果、大学院教育および研究の系統的な活動と研究交流が活発になり、学系および大学院のセミナーでは、幅広い分野の研究発表が行なわれ、院生を含む若手研究者に良い刺激を与えている。新たな試みとして、大学院生のベンチャーマインド育成の助成も行なった。引き続き、外部資金の獲得が比較的順調に推移したので、技官室の充実や共通設備維持支援を行ない、研究支援体制の整備を計ることが出来た。

次年度以降は、法人化と共に、修士課程の新博士課程研究科への移行が始まり、専攻を中心にした新たな研究体制がスタートする。加えて、研究科新規連携専攻の協力学系としての役割も増え、組織としてのバランスの良い運営が必要となる。

人事面では、学系再編の影響を考慮して物質工学系と協力して進めている。当該年度は、定年等を含め、3名の教授が退職し、2名の助手が転出した。前年度以降の補充人事は内部昇格と公募の実施によって進めた。年度末の欠員が2名あり、新しい分野を含めた早急な補強が課題である。